

優秀賞

いちごいちえ
一期一会のバスツアー

岐阜県 古井小学校 五年
西田 江里菜

これは、今年の夏、家族で出かけたバスツアー旅行でのできごとです。

朝、ツアーのバスに乗ったとき、車内に体の不自由な人が二人いることに気がつきました。その人たちの席は、運転席のすぐ後ろでした。そして、二人の荷物には、ヘルプマークがついていました。ヘルプマークは、最近では街中でも見かけることが増えていて、わたしはお母さんから、ヘルプマークの意味を教えてもらっていました。だからひと目で、どこかお困りのところがあることがわかりました。

バスが目的地に着くまでの間、バスガイドさんは、

「到着したら下り坂がありますが、車いすはいりますか。」

「時間に余裕はありますので、急がなくても大丈夫ですよ。」

バスの運転手さんも、

「足元に気をつけてください。ゆっくりでいいですよ。」

などと、やさしく声をかけていて、その人たちが困ることのないよう気をくばっている様子でした。

自分一人では大変なことも、こんなふうに関心を持ってもらえるだけで、きつとうれしく感じるだろうし、心強く思えるのではないのでしょうか。

この日は、お天気が不安定で、途中何度か雨が降りました。

そのとき、事件は起きました。バスに戻る時間になっても、帰ってこない人がいたのです。あの二人のお客様です。

バスガイドさんと運転手さんが話し合い、どしゃぶりの雨の中、ガイドさんは傘を持ってバスから飛び出しました。それから間もなくして、ガイドさんと二人のお客様がバスに戻ってきました。心配そうに待っていたほかのお客様も、みんなホッとした様子でした。

でも、バスガイドさんの服はびしょぬれでした。ガイドさんは、お客様が少しでも雨にぬれないよう、さしていた傘をお客様の方に寄せて歩いたから、自分は雨にぬれてしまったのです。

バスガイドさんの仕事は旅のガイドだけではないことを、このときわたしは知りました。

そのあとも、どしゃぶりの雨が降り続き、ツアーで予定していた場所も車の中から見学するかたちとなりましたが、それも思い出とばかりに、ほかのお客様も楽しんでいました。

バスの中は、旅の最後まで、穏やかで温かな空気に包まれていました。すてきな出会いに恵まれて、とてもよい旅行となりました。

一期一会のバスツアーにありがとう。